

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(7/8)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
千年の草原の継承と創造的活用総合特区 (阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町)	3.1	3.3  <u>進捗度</u> ・草原面積、野焼き再開牧野数 97%  ・観光入り込み総数、阿蘇地域の宿泊者数《定性的評価》  ・あか牛肉料理認定店数 90%  ・草原再生募金額 23% 等	3.0  <u>財政支援等</u> ・草原案内人システムの整備  ・草原活用連携促進事業  <u>地域独自の取組</u> ・ASO環境共生基金事業  ・入湯税込観光活用事業 等	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本地震の影響が尾を引いており、取組が成果に結びつかない点があることはやむを得ない。</li> <li>野焼きを通じた草原面積の維持・確保は軌道に乗っていると評価することができる。野焼き再開の増加牧野組合数については、高齢化が進む中で大変な取組だと思われるが、確実に増加が続いており望ましい成果となっている。</li> <li>観光客や宿泊客については自然災害等の外部要因の影響が大きいですが、その中で多々努力されている様子が窺える。</li> <li>あか牛料理認定店の数は、ここ4年増加することがなかったが、29年度には3店舗増加の63店舗となっており、活動努力の成果として評価できる。</li> <li>草原体験利用についてはプログラムの整備を行うとともに、その具体的な映像等をWEB上に公開するなどして、アピールを続けることを考えるとよい。</li> <li>募金額等は、復興目的の寄付やふるさと納税に流れている可能性がある。災害復興にかかる事業との連携や情報発信により、多くの人々に訴える取組が必要ではないか。</li> </ul>